

三項演算子

if,elseで単純な処理が合った場合によりシンプルに書く方法があるので覚えていきましょう。

三項演算子とは

前回までの課題でif,elseを使った条件分岐を使った処理を書きました。

```
var boolean = true;
var resultText = "";
if (boolean) {
  resultText = "Aの処理"
} else {
  resultText = "Bの処理"
};
console.log(resultText);
```

上記のコードは一見普通見えますが作業肯定をテキスト化させると...

- resultTextと言う空の変数を作る
- if文を書いて、比較条件がboolean型の単純な比較
- trueの処理、falseの処理はどちらも変数に代入で内容が違っただけ

このようにして書くと冗長に感じませんか？

条件やtrueの処理、falseの処理が複雑ならまだしもこのような単純な処理に6行使ってプログラミングするのは色々と効率が悪いです。

そのな時に使うのが**三項演算子**

三項演算子を使用したコードだとこのようになります。

```
var resultText = boolean ? "Aの処理" : "Bの処理";
```

`var resultText = "";`とifの処理をコメントアウトしてこの処理をコピペしてリロードしてみてください。

結果は変わりません。ただ6行使っていた処理が1行になるのは楽ですね。

前回の関係演算子も三項演算子で処理できます。

```
var resultNum = 5 > 2 ? true : false;
```

三項演算子は以下のような構成されています。

条件式 ? trueの処理 : falseの処理

課題

1. 変数の中にtrueまたは、falseが代入された時の処理を作ってください。
2. 代入された変数の中が5より大きい時にtrueの処理と、5より小さい時にfalseの処理を作ってください。
3. 代入された変数の中が5より小さい時にtrueの処理と、5より小さい時にfalseの処理を作ってください。
4. 代入された変数の中が10以上の時にtrueの処理と、10以下の時にfalseの処理を作ってください。
5. 代入された変数の中に値が存在する場合はtrue、存在しない場合はfalseの処理にしてください。